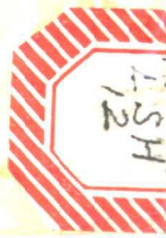


41.597
LSH
12

日语注释文选

北 京 出 版 社

12



日 语 注 释 文 选

第十二辑

《日语注释文选》编辑组 编

北 京 出 版 社

日语注释文选

第十二辑

《日语注释文选》编辑组 编

*

北 京 出 版 社 出 版

(北京崇文门外东兴隆街51号)

新华书店北京发行所发行

北 京 印 刷 一 厂 印 刷

*

787×1092毫米 32开本 4.75印张

1983年2月第1版 1983年2月第1次印刷

印数 1—14,000

书号: 9071·96 定价: 0.39元

目 録

一	ことわざ	1
二	日本語と漢字 附参考译文：日语和汉字	18
三	不思議な風呂敷包み 附参考译文：神秘的包裹	28
四	大陸は動いている 附参考译文：大陆在运动	43
五	鼻のはたらき 附参考译文：鼻子的功能	50
六	おもちゃの秘密	57
七	織物 附参考译文：纺织品	63

ことわざ

まえもって①注意深く②用心して事に当たれば③失敗の④ないことをたとえて、「ころばぬ⑤先のつえ。」⑥といったり、事が起こってから⑦あわてて準備すること⑧を、「盗人を捕らえてなわをなう。」⑨と戒めたりします⑩。古く⑪から⑫あるこのよな文句⑬を、「ことわざ」といいます。

ことわざとよく似た⑬ものに、格言があります⑭、この二つには、少しちがうところ⑮があります。格言は、「天は人の上に人をつくらず⑯。」⑰とか、「先んずれば⑱人を制す。」⑲とかいうように⑳、堅苦しく、また、教訓的な感じの㉑強いもので、有名な人の言葉や書物の中の文句を指す場合が多いのに対して㉒、ことわざのほうは㉓、普通の人が、普通の話の中にはさんで、おもしろく、上手に、しかも㉔ずばりと㉕物事の急所を言い当てている㉖ようなものを指します。

△ 天は人の上に…… 人間は本来すべて同格㉗で、身分や地位の上下で㉘差別される㉙べきでない㉚の意。福沢諭吉㉛が用いたので㉜有名になった格言。こ

のあと「……人の下に人をつくらず。」^③と続く。

△ 先んずれば人を制す 中国の古典「史記」にあることば。

ことわざは、ふだんのまま^④の言葉で、口拍子に合うように^⑤作られています^⑥から^⑦、意味がよくわかり、たやすく覚えることができます^⑧。

「短気は損気。」^⑨「かめの甲より年の功。」^⑩のように、同音を重ねたものがあるかと思えば^⑪、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。」^⑫「桜折るばか^⑬、かき折らぬばか^⑭。」^⑮のような対句形式のものもあり、また、「すき腹にまずいものなし^⑯。」^⑰（五七音）^⑱「かわいい子には旅させよ^⑲。」^⑳（七五音）、「帯に短し^㉑、たすきに長し^㉒。」^㉓（七七音）のように、音数の重ねかたで調子を整えたものも、少なくありません。

△ 短気は損気 短気を起こすと^㉔損を招く^㉕の意。

△ かめの甲より年の功 年長者の経験の^㉖尊いことを強調したことわざ。

△ 桜折るばか…… 桜は、枝を折ると枯れやすい^㉗。またかきは、枝先を折ると、翌年よく実になる^㉘。

△ かわいい子には…… 子供がかわいければ^㉙、あまやかす^㉚より苦勞をさせ
たほうがいい^㉛という^㉜こと。

△ 帯に短し……

物事のはんば^⑥で、役にたたない^⑦ことのたとえ。

ことわざにしたとえの^⑧多いことも、表現上の特色です。「ねこに小判^⑨。」^⑩「二階から目薬。」^⑪などは、今でも広く知られている^⑫ことわざですが、だれかが^⑬初めて^⑭これらを言いだした^⑮ときは、たいへん気のきいた^⑯たとえに思われ^⑰、長く人々の印象にとまって、今日まで^⑱伝えられてきた^⑲ものでしょう。

△ ねこに小判 値打の^⑳あるものでも^㉑、相手によっては^㉒、その値打がわからない。

△ 二階から目薬 まだるい方法^㉓で、ほとんど役にたたない^㉔。

また、ことわざには、逆説的な言いかたや、意味の反対の言葉を連ねたものが少なくありません。「急がば^㉕回れ^㉖。」^㉗とさとされ^㉘、「話し上手の聞き下手。」^㉙と憎まれ口^㉚を聞かされては^㉛、普通の言葉以上^㉜に、聞く耳にはこたえた^㉝にちがいありません^㉞。

ことわざは、使いかたによって^㉟、さまざまの役めを果たしてきました^㊱。

第一は、なんといっても^㊲、知識を伝える働き^㊳です。村の年寄り^㊴は、長い年月の経験によって悟ったことを、若い人々に伝えるために^㊵、ことわざによる耳学問の

方法⑩をとりました。今日でもよく耳にする⑪「暑さ寒さ⑫も彼岸⑬まで。」⑭という言葉が、いい例です。「彼岸」は、春分、秋分を中日⑮とした⑯七日間で、このころ⑰は、昼と夜の長さが半々⑱になり、余寒の厳しさも、春の彼岸になればぐっと⑲薄らぎ、残暑の激しさも、秋の彼岸には狂いなく⑳衰えをみせる㉑事実を知らせています。このような知識は、日常の衣食住の生活に深い関係があるばかりでなく㉒地方によっては㉓、「彼岸過ぎての㉔ばかごやし。」㉕などといって、農業を営むうえ㉖の知恵を授けるだいいじなめやす㉗にもなってきました。

△ 彼岸過ぎての…… 春の彼岸が過ぎてから㉘、麦にこやしをやっても㉙、なんの役にもたたないということ。

ことわざの第二の働きは、教訓に利用された㉚点です。年寄りたちは、めいめい㉛の長い生活経験から、この世を生きぬく㉜ために、どうすることがいいか、どうしなければならぬ㉝のかを悟っていました。その経験から悟った知恵を、ことわざに託して㉞、若い人たちに示しました。人のことをうらやましがる㉟者があれば、「人の花は赤い。」㊱とか、「他人の飯は白い。」㊲とか言って反省させ㉡、飲みすぎ㉢たり食べすぎたりして㉣、体をこわすことの㉤ないように㉥、「腹も身のうち。」㉦「腹八

分めに医者いらす。など教えました。

△ 人の花は赤い 他人のものはよく見えるの意。

△ 人の飯は白い 他人のものはよく見えるの意。

△ 腹も身のうち 腹も自分の体の一部分であるから、大切にしなければならぬ。

第三に、それは、会話にユーモアをただよわせ、社会生活をなめらかにする働きをもっています。「下手の横好きですよ。」と、けんそんして語れば、「いや、『好きこそものの上手なれ』といえますから。」と切り返しただけで、社交は活気づくことでしょうし、人の誤りを注意してやるのにも、「弘法も筆の誤り。」でしよう。」と言え、角がたたないで済みませう。また、「どんぐりの背くらべ。」とか、「花よりだんご。」とかいうように、ことわざ自体にユーモアを含んでいるものは、話の中にうまく織り込まれて、会話を生き生きとさせるでしょう。

△ 弘法も筆の誤り 名人も、ごくまれにはまちがえるの意。弘法大師は、書人の名人としても有名。

△ どんぐりの背比べ　どれもこれも[㊦]平凡^{へいぶん}で、抜^ぬきん出^でた[㊦]ものはないの意。

△ 花よりだんご　名目^{めいもく}よりも実利^{じつり}とれ[㊦]の意。

このようなことわざは、いつ、どこで、だれによって作られたものか、明^{あき}らかではありません。しかし、今残^{のこ}っていることわざの大部分は、中世^{ちゆうせい}から近世^{きんせい}にかけて[㊦]できた[㊦]ものだろうといわれています[㊦]。

△ 中世　日本では、鎌倉^{かまくら}[㊦]、室町^{むろまち}[㊦]両時代^{りやうじだい}の約四百年間をいう。

△ 近世　日本では、江戸時代^{えど}[㊦]の約三百年間をいう。

和歌^{わか}[㊦]や俳句^{はいく}[㊦]とちがつて、ことわざはその作者^{さくしや}の名^なが伝えられていないのは、その多く[㊦]が、名もない人々の間^{あいだ}で、次々^{つぎつぎ}と[㊦]作られてきたからでしょう[㊦]。だれかが、何かの折^{おり}に[㊦]、実に[㊦]おもしろいこと、真^{しん}に迫^{せま}った[㊦]ことを言ったりすると、それに感心^{かんしん}して、その言葉を、耳から耳へと伝えて、長く残したものと思われれます。現在残されていることわざの大部分は、そのようにしてできたものと言える[㊦]でしょう。

(学校図書「中学国語一」による)

注 释

- ① まえもつて 副词,「事先」「预先」的意思。
- ② 注意深く 由名词「注意」和形容词「深い」构成的复合形容词的连用形,可译为「小心翼翼」「考虑周到」。
- ③ 事にあたれば 「事にあたる」是词组,可译为「遇事」「有事时」。「あたれば」是动词「あたる」的假定式。
- ④ 失敗のないこと 这里的「の」是格助词,表示连体修饰节中的主语,可用「が」替换。
- ⑤ ころばぬ…… 「ぬ」是文语否定助动词「ぬ」的连体形,等于「ない」。
- ⑥ 这句可译为「未雨绸缪」「防患于未然」。
- ⑦ 起ってから 动词连用形下接「てから」表示「在……之后」的意思。
- ⑧ 这句可译为「临难抱佛脚」「临阵磨枪」。
- ⑨ ……と言ったり……と戒めたりします 并列助词「たり」接在动词连用形之后,表示几个动作的并列或交替进行。这个惯用型通常以「……たり……たり(する)」的形式出现,可译为「又……又……」「或……或……」。
- ⑩ 古く 名词,「古时」「从前」。
- ⑪ 古くから 「から」是格助词,表示时间、空间的起点,可译为「从」。
- ⑫ このような文句 「ような」是比况助动词「ようだ」的连体形,可译为「象……」。「文句」是「词句」「话语」的意思。
- ⑬ ……とよく似た 可译为「与……很相似」。
- ⑭ ……ありますが 「が」是接续助词,在这里表示语气的转折。

⑮ ところ 形式体言，可译为「处」「点」。

⑯ つくらず 「す」是文语否定助动词，这里是终止形，等于「ない」。

⑰ 这句可译为「上帝不创造人上人」「四海皆兄弟」。

⑱ 先んずれば 动词「先んずる」的假定式。

⑲ 这句可译为「先发制人」。

⑳ ……とか……とかいうように 并列助词「とか」以举例的形式把几个事物并列地提出来，这里可译为「象……啦……啦这类的格言一样」。

㉑ 感じの強いもの 「の」是格助词，见注④。

㉒ ……のに対して 惯用型，活用语的连体形下接形式体言「の」和格助词「に」，表示两者对比。可译为「和……相比」「与……相反」。

㉓ ことわざのほうは 「ほう」是名词，常用于比较，可译为「一方」「这一方面」。

㉔ しかも 接续词，「并且」「而且」。

㉕ ずばりと 副词，「一语道破」「一针见血」。

㉖ ずばりと物事の急所を言い当っている 可译为「一言说中问题的关键所在」「一言击中要害」。

㉗ 同格 名词，「同等资格」。

㉘ 地位の上下で 「で」是格助词，这里表示原因。

㉙ 差別される 是动词「差別する」的被动态，可译为「受到不同的对待」「受到歧视」。

㉚ 差別されるべきでない 「べき」是文语助动词「べし」的连体形，常出现在口语中。这里可译为「不应受到歧视」。

① 福沢諭吉 人名。日本明治维新初期有名的思想家、教育家。

③② ので 接续助词，表示原因，可译为「由于」「因为」。

③③ 人の下に人を作らず。 不创造人下人。

③④ まま 名词，表示其状态等原封不动。

③⑤ 口拍子に合うように 「ように」是比况助动词「ようだ」的连用形，这里表示目的，可译为「为了」。

③⑥ 作られています 动词「作る」的被动态，「ています」表示状态的存续。

③⑦ から 接续助词，表示原因，可译为「因为」「所以」。

③⑧ たやすく 形容词「たやすい」的连用形，「容易」「简单」的意思。

③⑨ 覚えることができます 惯用型，动词连体形下接「ことができます」表示可能，可译为「能够……」「可以……」。

④① 这句可译为「急性子吃亏」。

④② 甲めの甲より年の功。 可译为「年高经验丰富」「姜还是老的辣」。「甲」是「甲壳」，「功」是「功效」「功效」的意思。

④③ ……かと思えば

④④ 惯用型，表示对某种事物不是一次，而是逐渐，连续不断地认识的。可译为「一看……再看」。

④⑤ 一看「有……也有……」。例：赤い花があるかと思えば、白い花もある。

④⑥ 聞くは 等于「聞くことは」，是文言表达形式，动词连体形后省略「こと」直接接「は」。

④⑦ 聞かぬは 等于「聞かないことは」。

④⑧ 这句的意思是「有不懂之处，求教别人，是一时的耻辱，不懂装懂，不求教于人，则是终生的耻辱」「要不耻下问」。

④⑨ 桜折るばか

④⑩ 等于「桜を折る者はばかだ」。

④⑪ かき折らぬばか

④⑫ 等于「かきを折らない者はばかだ」。

④⑧ 这句可译为「不该做的做了是蠢人。该做的不做也是蠢人」。

④⑨ なし 文语形容词，等于「ない」。

⑤⑥ 这句可译为「饿的时候吃什么都香甜」「饥不择食」。

⑤⑦ 旅させよ 「旅」后省略了宾格助词「を」，「させよ」是「する」的使役式「させる」的命令形。

⑤⑧ 这句的意思是「要使心爱的孩子健康成长，就要让他出外锻炼，经风雨，见世面」「娇子令其远游」。

⑤⑨ 短し 文语形容词，等于「短い」。

⑤⑩ 長し 文语形容词，等于「長い」。

⑤⑪ 这句可译为「高不成，低不就」「一瓶子不满，半瓶子晃荡」。

⑤⑫ 調子を整えた 可译为「调好音调（语调、格调）」。

⑤⑬ ……おこすと 「と」是接助词，表示假定或前后两者几乎同时发生，此处可译为「……就……」。

⑤⑭ 損を招く 词组。可译为「招损」「招来麻烦」。

⑤⑮ 経験の尊いこと 「の」是格助词，见注④。

⑤⑯ 枯れやすい 动词连用形下接「やすい」构成复合形容词，表示「容易……」，此句可译为「容易枯萎」。

⑤⑰ 実になる 词组。可译为「结果」「结出果实」。

⑤⑱ かわいければ 形容词假定式，「如果喜欢」的意思。

⑤⑲ あまやかす 动词，「娇生惯养」。

⑤⑳ ……より……ほうがいい 惯用型，「より」是格助词，表示被比较的对象，「……ほうがいい」表示两种事物中，某一种为好。可译为「与其……不如」「还是……为好」等。

⑥① ……という…… 「いう」是形式动词，接在助词「と」的下面，总结归纳前面的句子，把前面的句子做为一个整体修饰下文。可译为「这种……」「这一……」「所谓……」等。

⑥0 はんば 名词，汉字写作「半端」，可译为「中途」「不完全」等。

⑥1 役にたたない 词组，「无助于……」「无益于……」的意思。

⑥2 たとえの多いことも 「の」，见注④。

⑥3 小判 名词，日本古时的金币。

⑥4 这句可译为「对牛弹琴」「好东西得不到赏识」。

⑥5 这句可译为「隔靴搔痒，无济于事」或「远水解近渴」。

⑥6 広く知られている 可译为「众所周知」。

⑥7 だれかが 「だれか」的「か」是副助词，表示不定，「だれか」的意思是有人但究竟是谁不清楚。

⑥8 初めて 副词，「最初」「第一次」的意思。

⑥9 言いだした 「言いだす」是复合动词，「言いだす」可译为「开始说」。

⑦0 気のきいたたとえ 「気がきく」是惯用语，可译为「机灵」「有眼力」「心眼快」等，这里可译为「巧妙（贴切）的比喻」。

⑦1 思われ 动词「思う」的未然形「思わ」＋助动词「れる」构成自发式，表示自然而然地「感到」「觉得」的

意思。这里是它的中顿形式。

⑦2 まで 副助词，表示到达的「程度」「限度」。

⑦3 伝えられてきた 「きた」是补助动词「くる」的过去式，「……てくる」通常表示移近或由远及近的趋向，

这里可译为「流传了下来」。

⑦4 ねうちのあるもの 「の」，见注④。

⑦5 でも 提示助词，可译为「就连……也」「即便是……也」。

⑦6 ……によっては 惯用型，表示例外的情况，可译为「由于……（的不同）也有……」。

⑧ まだるい方法 「まだるい」是形容词,「慢吞吞的」「慢得令人着急的」的意思。这里可译为「见效很慢的方法」。

⑨ほとんど……动词未然形+ない 惯用型,可译为「基本没有……」「基本不……」。

⑩急がば 动词「急ぐ」的文语假定式,等于「急げば」。

⑪回れ 动词「回る」的命令形。

⑫这句可译为「图快先求稳」「欲速则不达」。

⑬……とさとされ 「と」是格助词,表示动词「さとされる」的内容,「さとされる」是动词「さとす」的被

动式。可译为「被告诫」「被提醒」等。

⑭这句可译为「善于辟令却不善于听人说话(的人)」。

⑮憎まれ口 名词,可译为「令人厌恶的话」「讨厌的话」。

⑯聞かされては 「聞かされる」是动词「聞かす」的被动式,「ては」是接续助词,表示轻微的假定。

⑰……以上に 惯用型,「以上」接在名词、数词之后,表示超过上边谈到的程度、数量。

⑱聞く耳にはこたえた 「耳にこたえる」是惯用词组,可译为「听起来印象深刻」。

⑲……にちがいありません。 惯用型,体言或句子后续「にちがいない」,表示有根据的推断。可译为「一定(会)……」。

⑳体言+によって 惯用型,可译为「由于……」「根据……」「通过……」等。

㉑役目を果たしてきました 可译为「起到了作用」「尽到了责任」等。

㉒なんといっても 词组,可译为「不管怎样」「不管怎么说,还是……」等。

㉓働き 名词,可译为「作用」。

㉔ために 「ため」是形式体言,这里是表示目的,可译为「为了……」。

⑪ ……による…… 惯用型，采用「体言による体言」的形式。格助词「に」和动词「よる」连在一起，做定语，修饰后续名词，并说明后续事项的「方式」「手段」「根据」等。

⑫ 耳にする 词组，「听到」「听见」的意思。

⑬ 暑さ寒さ 形容词、形容动词、部分形容词型助动词的词干下接「さ」，可构成名词，可译为「度」「性」等。

⑭ 彼岸 名词，节气的名称，指春分、秋分前后各加三天共七天的时间。

⑮ 这句可译为「天气冷热，彼岸转折」「春分见暖、秋分变凉」。

⑯ 中日 名词，「中间一天」「中间日」。

⑰ ……を……とした 可译为「把（以）……做为……」。

⑱ このころ 这里指的是「春分、秋分を中日とした七日間」这段时间。

⑲ 半半 名词，可译为「一半一半」「各一半」。

⑳ ぐっと 副词，「大大地」「……得多」「显著地」。

㉑ 狂いなく 词组，可译为「正常地」「有规律地」，这里可译为「照常」「照样」「照例」等。

㉒ 衰えを見せる 「衰え」是名词，「衰弱」「衰减」的意思，「見せる」是「呈现出」「显示出」的意思。

㉓ ……ばかりでなく 惯用型，可译为「不仅……而且」。

㉔ 地方によつては 「……によつては」是惯用型，此处可译为「有的地方」，见注②。

㉕ 彼岸すぎで…… 部分动词的连用形＋「ての」构成连体修饰，有「……之后」的意思。例如：「これは私が

がよほど考へてのことだ」（这件事我考虑了许久）。

㉖ 这句可译为「雨后送伞」「马后炮」。「ばかごやし」是词组，「无益的施肥」的意思。

㉗ ……うえ 名词，接动词连体形下面，表示……「在……方面」「在……上」。